学校番号	３１０

令和８年度　数学科

教科	数学	科目	数学Ｃ	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	高等学校「数学Ｃ」　（数研出版）						
副教材等	４プロセス数学Ｃ　（数研出版）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

①板書用ノートと問題集用ノートを用意しましょう。
②授業は「基礎項目確認→例題確認→練習問題演習→練習問題振り返り→類題演習(問題集)→プリント演習→小テスト」　の流れで行います。
③知識定着への近道は、「アウトプットの繰り返し」と考えます。例題確認から類題演習までの流れの中で、自ら考え、周りと協働できる機会を設けますので、積極的に活動しましょう。

2　学習の到達目標

【知識及び技能】
ベクトル，平面上の曲線と複素数平面について理解し，基礎的な知識の習得と技能の習熟をめざす。
【思考力、判断力、表現力等】
ベクトル，平面上の曲線と複素数平面に関する事象を，数学的に考察する能力を培う。
【学びに向かう力、人間性等】
ベクトル，平面上の曲線と複素数平面を学ぶ中で，数学のよさを認識できるようにするとともに，それらを活用する態度を育てる。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	ベクトル，平面上の曲線と複素数平面についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，数学的な表現の工夫について認識を深め，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	大きさと向きをもった量に着目し,演算法則やその図形的な意味を考察する力,図形や図形の構造に着目し,それらの性質を統合的・発展的に考察する力,数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けるようにする。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度,粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度,問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を身に付けるようにする。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1	第1章　ベクトル	第1節　ベクトルとその演算 1.ベクトル 2.ベクトルの演算 3.ベクトルの成分 4.ベクトルの内積 第2節　ベクトルと平面図形 5.位置ベクトル 6.ベクトルの図形への応用 7.図形のベクトルによる表示	a：向きと大きさをもつ量としてのベクトルの意味およびその演算について理解し，成分表示も含めてベクトルの演算ができる。 b：点の座標とベクトルの成分の関係を，座標平面上の図形の問題に活用できる。位置ベクトルの一意性を活用して，線分の交点の位置ベクトルを求めることができる。点が線分 AB 上に存在する条件を活用して，点 P の存在範囲を求めることができる。 c：様々な図形の考察にベクトルを活用しようとする。内積の性質を，既習の知識を用いて証明しようとする。	小テスト 考査	ワークシート 考査	ノート 振り返りシート
2	第2章　空間のベクトル	1.空間の点 2.空間のベクトル 3．ベクトルの成分 4．ベクトルの内積 5．ベクトルの図形への応用 6.座標空間における図形	a：ベクトルの意味およびその演算について理解し，成分表示も含めてベクトルの演算ができる。 b：空間における点の表し方を理解し，座標平面や座標軸，原点に関して対称な点の座標を求めることができる。空間のベクトルが 3 つのベクトルの線形和で 1 通りに表される理由について，平面上のベクトルが 2 つのベクトルの線形和で 1 通りに表されることから説明できる。 c：平面上のベクトルの性質などが空間でも成り立つことから，ベクトルの定義が次元によらないことに興味をもつ。	小テスト 考査	ワークシート 考査	ノート 振り返りシート

	第3章　複素数平面	1.複素数平面 2.複素数の極形式 3.ド･モアブルの定理 4.複素数と図形	a: 複素数の極形式について理解し，複素数を極形式で表すことができる。ド・モアブルの定理を理解し，複素数の n 乗を求めることができる。点を中心として回転した点を表す複素数を求めることができる。 b: 1 つの複素数が複素数平面上で 1 つの点を表すことを理解し，点を複素数平面上に表すことができる。1 の n 乗根の求め方をもとに，一般の複素数の n 乗根を求めることができる。 c: 複素数の積の図形的な意味から，ド・モアブルの定理を自ら見出したり証明したりしようとする。	小テスト 考査	ワークシート 考査	ノート 振り返りシート
3	第4章　式と曲線	第1節　2 次曲線 1.放物線 2.楕円 3.双曲線 4.2 次曲線と平行移動 5.2 次曲線と直線 6.2 次曲線の性質 第 2 節　媒介変数表示と極座標 7.曲線の媒介変数表示 8.極座標と極方程式 9.コンピュータの利用	a: 放物線，楕円，双曲線の定義や性質を理解し，それらを図示できる。2 次曲線の接線の方程式の一般形について理解し，接点が与えられたときに接線を求めることができる。媒介変数表示された曲線の方程式を求めることができる。 b: 軌跡の考え方を用いて，曲線の方程式を導くことができる。離心率を用いて 2 次曲線を統一的に捉えられる。 c: 中学で学んだ反比例のグラフが双曲線であることに興味をもち，双曲線の定義を満たしていることを確かめようとする。直交座標とは異なる方法で点の位置が表せることに興味をもち，それらの違いや共通点を自ら見出そうとする。	小テスト 考査	ワークシート 考査	ノート 振り返りシート

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度